



埼玉労山

埼玉県勤労者山岳連盟

機関紙：発行責任者 武笠真次
編集 小松勝浩〒330-0063
さいたま市浦和区高砂4-1-5ふじビル2階
TEL・FAX 048-838-0640<http://www.tozans.justhpb.jp/>

電子版

4号目次

- P1 県連の動き
- P4 岩ネットワーク参加報告
- P5 救助隊訓練報告
- P6 第18期登山学校受講記

県連の動き

委員会活動報告

全国連盟活動

新特別基金管理運営委員会8/27 武笠出席

申請が23件あった。埼玉では北本山の会1件。アンケートの分析中

労山組織基本問題調査会 9/28～29(土・日) 労山事務所/武笠出席予定9/28午後1時開会・
9/29午後12時閉会関東ブロック役員交流集会9/7～9/8(土・日) 千葉県富津市金谷3887 かぢや旅館 JR内房
線金谷駅下車・徒歩5分 9/7日12時開会・9/8日12時閉会 佐藤出席予定

県連全体活動

- ・被災地支援活動10/19日(土)～20日(日)18:00～20:00 小屋泊 詳細は9/中旬連絡 理事
の参加は現在5人
- ・安全登山講演会 11/24日 変更 金氏 予定
- ・2014年度の労山カレンダーの発注

財 政

連盟加盟費がまだ入金されてない加盟団体が数件有ります至急入金下さい
未納団体4団体(1団体連絡済み)10月末日後期分納入期限

女 性

女性委員会9/9(月)19:00～朝霞台ジョナサンにて

議題 東日本交流集会の確認、学習会の内容及び日程 第13回東日本女性登山交流集会「福島
・うつくしまを登んべし」(南会津)・2013年10月13日(日)～14日(祭日)

参加者予定：新座8、ヒスタリ4、所ハイ3、大宮1、わらび1 計17名締切

ホームページ

8/14 救助隊7/20日 訓練報告掲載 (橋立川 於)。機関紙 電子版3号発行

★東日本大震災支援計画★

石巻災害支援参加希望有難うございました。

先般、ご案内した石巻災害支援活動に関し定員を20名、締切を9月6日とさせて頂きましたが、すでに定員になってしまいました。定員は、先方の受け入れ事情もあり増やすのは難しいので、一応締め切らせて頂きます。この後はキャンセル待ちとさせて頂きます。来年の3月15～16日に同じ場所で支援活動を行いますので、そちらにも参加くださるようお願い申し上げます。

委員会活動報告

機 関 紙

機関紙電子版3号発行 8/14 HP掲載 機関紙電子版4号9月11日(水)予定
各記録担当者は早急に原稿をメールでお願いします

ハイキング

- ・委員会8/28日(中止)次回 委員会10/30日
- ・1月講座について 講師の選定 確認中 1月25日、26日で調整中

自然保護

東日本震災復興支援活動 1回目 担当 加納 参加者 大宮2、ピスターリ1、埜歩歩3、三郷3、熊トレ1、新座10 定員の20名になったので、申し込みを締め切ります。 第16回労山自然保護講座IN遠野—秋季特別講座 三郷山の会1名参加予定
【早池峰山の高山植物をニホンシカの被害から守る対応について】

海 外

各会に海外に行く会員の計画書 全国宛と県連事務所木村宛送付

遭難防止・安全教育

安全講演会11/24日高鼻コミュニティセンター大会議室 13:00受付13:30開始16:00終了 / 講師 金 邦夫氏(救助隊副隊長) 今回の費用は労山の安全対策基金でまかなうため、参加は無料 一次締め切り 10/11 二次締め切り 11/8

救 助 隊

9/5(木) 役員会19:30~浦和サポセン

登山学校

「山での救急法」(机上:カルタスホール実技:日和田山)
8/3机上 受講者23名、運営委員 8名
8/4実技 受講者26名、運営委員 9名
テント泊体験特別講座実地 8/3~4 12名 運営委員9名
「地図の読み方」(机上9/7:カルタスホール、実技9/8:奥多摩山系・高水三山)

岩ネット

8/17(土)日和田山 参加者 14名
飯能3、所ハイ2、わらび2、新座2、三郷1、椽1、彩の山友3
次回:9/28日(土)日和田山 開催予定です。

ブロック活動報告

西部 = ブロック会議 9/12 交流ハイクについて
・11/17(日) 鍋交流ハイク
南部 = ブロック会議 特になし
中部 = ブロック会議 特になし
北部 = ブロック会議 特になし

加盟団体活動報告

三郷山の会 : 10/13, 14 三郷山の会20周年集中登山 日光方面

新座山の会 : 会員投稿「創立20周年記念誌について」久保

新座山の会 創立20周年記念誌について 新座山の会 久保 記

新座山の会は、1993年発足から2013年7月で20周年を迎えました。

ここ1~2年は派手な深紅の記念Tシャツ姿の会員を、目にした方もいらっしゃると思います。記念講演、記念パーティ、記念植樹、記念Tシャツ、海外山行ハンラ山・知異山、キナバル山、国内集中登山北アルプス蝶が岳、と、いろいろなお祝い行事の最後が、この記念誌の発行になります。届けられた記念誌には、会員一人ひとりの豊かな山の思い出話と共に、「新座山の会の20年間の記録」が、掲載されていた。新座山の会の「設立理念」「全国労山、埼玉労山との関わり」が、丹念に拾い上げられ記載されています。また、新座山の会の「一人一役」や会報誌「山道」、労山機関紙「登山時報」の位置付などが、創立当初の資料に、明記されています。そして、会の山行の歩みから、沢、岩、縦走、雪山、(もちろんハイキングも)等、新人教育をしながら、果敢に生き生きと山に向かってアグレッシブな当時の会員の姿が浮かびあがってきます。今と同じぐらいの人数が在籍していた時期も長かったようだが、そんな時でも、会員募集の公開ハイクや、登山公開講座を欠かさず、新しい仲間の参加を常に呼び掛けています。停滞や、安住することなく、生き生きとエネルギッシュな20年間のあゆみを感じとることが出来ます。

特に興味深かったのは、埼玉県連が主催しての山行を何回か行っており、そこに参加していたことです。また、会の創設翌年1994年には、早くも全国女性交流集會に5名も参加しています。同年11月27日県連女性委員会主催岩トレに、場所が湯河原幕岩にもかかわらず13名も新座から参加しています。すごい熱気! 多分県連の歴史から言えば、もっと前から「県の女性委員会」は存在していたに違いない。今、県連女性委員会を担当している一員として、先輩方のもした火がとても尊く、バトンでリレーされてきたことを、感じます。あゆみとして、残しておいて頂きありがたい。そんな一冊です。

「温故知新」ではないけれど、何か事あるごとに、これからの会の道程として、知恵を授けてくれるに違いない一冊と、深く感じました。

新座山の会 : <http://www.geocities.jp/yumik061/>



岩ネット

第5回岩ネットに参加して

彩の山友会 高野 久美記



山登りを始めてからまだ1年半の私は、日和田山のゲレンデも、岩登りも17期登山学校の講座以来2回目です。

男岩に着いて見上げた時、高いし大きいと思いました。

去年登山学校で南面を助けられながら登ったこと、懸垂下降で降りてくるときに怖かったことを思い出しました。

ハーネス、ヘルメットを装着して早速開始です。初心者は南面の右端にトップロープを張って行ないました。

自分の番が来るまで、口を開けながら登っている方の姿に見入っていました。自分の番がやってきてエイトノットが結べない。この前登山学校でやったのになんでだか出来ない。

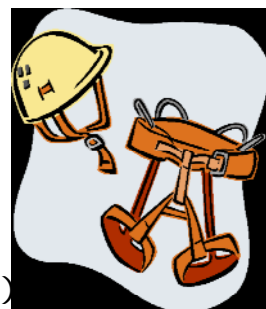
ハーネスに手がもたついて結束がなかなか出来ない。

あせる。教えてもらいながら、手伝ってもらいながら、やっと準備完了。時間がかかってしまい、他の方に申し訳ないと思う。ビレーヤーの方に「登ります。お願いします。」と言い、登り始めるが途中まで行くとどこに手や足を置いていいのかわからなくなってしまい、もうパニックです。

下から「右手をもっと上」や「左足をそこに置いて体重移動して」、「腕を伸ばして」「一気に立ち込んで」などなど指示が飛び交い、右ってどっち？そこってどこ？？？だらけの私に「高野～がんばれ」の声。深呼吸して再度トライです。なんとか登り切りました。

「テンション」と大きな声でビレーヤーの方に言い、体重をかけ下降です。身体が振られてしまうことを怖がり、足場を選んでしまいます。体重もうまくかけられません。

ビレーヤーの方に助けられながら、トライを含めて7本登ることができました。ご指導ありがとうございました。岩を知り、登ることのできる山を増やしていきたいし、巡り合いたいと思っています。立ち込みや体重移動、一番重要な足で立つことが出来ていない私ですが、少しずつ努力をし練習を重ねながら、上手になりたいと思っています。これからもよろしくお願いします。



追記：今日の参加者は14名と今年最多の参加者でした。（水谷＼(^o^)/）



救 助 隊



救助隊訓練報告

「橋立川北面は武甲山山頂に向けて、沢の遡行、沢沿いの廃道、長者屋敷尾根の一般登山道と3つの登降ルートが取れる。

今回の訓練は、予定では沢の搬出訓練であったが、搬出前の搜索に重点を当てる内容に変更し、複数パーティーでの同時行動を試みた。

羽竜氏、谷脇氏、渡辺氏、柴山の4人で沢遡行班を編成、廃道班と別れてから程ない地点、15メートル滝の下から入溪、そこからシラジク

ボを目指して遡行を続けた。

下見に来た時よりも水量が多く、滝を登るのも難しくなり、ひとつひとつの行動に時間がかかる。また、林道を車で上がってくる時から感じていたのだが、道に水流に削られた跡が多く、多くのこり、一ヶ月前よりも荒れ方が激しくなっていた。

倒木なども多く、沢をふさいでいる場所が数多くあった。

つい、通常の遡行のように、ロープの出し入れを悩んだり、なるべく簡素に済ませたくなくなってしまうが、救助隊の活動では、パーティー全体がいかに安全に移動することことが重要なので、ロープをなるべく出すようにして行動する。

高巻きする場合もうっかりすると廃道に入ってしまうので、ロープの出し入れの練習も兼ね、なるべく水線通しに歩くこととした。

水線通しには作業小屋の跡も多く、林業用の道も断片的についている。一方でその道を辿ると何箇所か崩壊して通行できない状態となっていて、全体の荒廃を感じさせられた。作業小屋跡にはビバークの適地も多く、搜索の拠点となるような場所に対して、共通認識を持つことができたように思う。今回の活動では、それぞれがどのような活動をしているのか、隊員全体に把握して欲しいと思っていた。橋立川はそうした目的にちょうどいい場所で、沢遡行班と、廃道搜索班は山中で何度か顔を合わせることができ、情報交換を含め、別働隊の行動を視覚化することができていたように思う。このような情報交換が出来るだけでも、山中での搜索活動の選択肢は増え、より安全に早く目的を達成できる。こうした訓練を通して、視覚化できない場所でも意思伝達ができ、よりスムーズな行動を選択できるようになると、救助隊としての力量となり、人命救助に貢献できる可能性は増すと思われる。

シラジクボを直前に、尾根に上がった時点で携帯電話が繋がる。そこまではずっと圏外であった。無線は直線状に姿が見える場合には順調だが、同じ斜面に入ると、傾斜自体が障害物となるのか、聞こえるが通じていない、などの不具合が多かった。

直線で見えるはずの位置取りが無線の中継には有利と思われるので、今後はそのような連携の向上も目指したい。

また、水谷氏が携帯が入る位置で留守番をしてくれたおかげで、全体の動きを俯瞰することもできた。

以前、関東の救助隊で行ったようなGPSのピンポイント搜索訓練の小型版のような活動となり、今後の活動の可能性を示唆したものと思えた。

(文責) 柴山 利幸



登山学校



「地図読み講座」

峠山の会 手塚みよ子記

カルタスホール / 2013.09.07机上

高水三山 / 2013.09.08実技

いくつになっても 楽しい学び！

知らないことが わかる喜び！

9月7日は机上講習がありました。この日は

地図に磁北線を引いてコンパスを使って自分の位置、
行きたい方角の学習。断面図の作成…各ポイント毎に距離と標高を見て線で
つないで作成。

等高線を描き最後に概念図を作成

9月8日は実技講習です。雨が心配されましたが、雨具を使わずに済みラッキーでした。昨日、目と手と頭をフル回転させて作った地形図が実際どのような景色なのか楽しみでもありました。運営委員の人から各ポイントで現在地の確認“車道から登山道に入る所”これから“谷に向かって歩いていく”今“稜線の脇を歩いている。”等分かりやすく説明がありました。

『地図の読めない女』（以前このような本のタイトルがありましたね。）の私でもなんだか「地図が読めた！」気になってしまったのが、自分でも不思議でした。

今までこんなに行く山について調べて（断面図・概念図を作り）山に行ったことはありませんでした。1日のルートも頭に入り自覚的に歩けたように思います。

毎回思うことですが、6～7名の班に必ず2人の運営委員の方がついて下さり私たち受講生に手取り足取り丁寧に教えて下さるのには、本当に感謝の気持ちでいっぱいです。

登山学校では、登山に関する知識はもちろん、日常毎日の生活についても学ぶことが多いです。いくつになっても、山を楽しむ工夫をこれからも学んでいきたいと思えます。

本日は若い人と歩けて刺激になりました。

みなさん、ありがとうございました。

